

6 フォローアップ調査について

令和3年度に元気づくり支援金を活用して事業を実施した団体を対象に、フォローアップ調査を行いました。

調査目的:「地域発 元気づくり支援金」のさらなる有効活用を図る観点から、支援金事業実施後も継続して地域に効果を及ぼしている事例等の状況を把握し、発信する。

1. アンケート調査

調査時期: 令和6年 8～10月

調査対象: 令和3年度に実施された事業のうち、第三者評価が高かった事業を中心に選定

回収状況: 回答団体数 106

調査方法: 郵送又はメール、記名方式

調査内容: (1) 支援金活用事業の効果について
(2) 団体の現在の活動状況について

2. 追加調査(ヒアリング調査)

調査時期: 令和6年 10～11月

調査対象: アンケート調査の回答のあった団体の中から、支援金の効果的な活用により継続的に事業展開している団体を各地域1つ選定

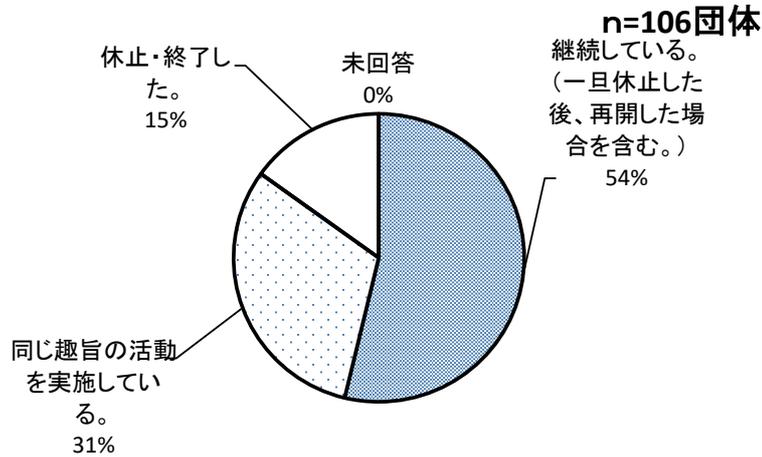
調査方法: 聞き取り調査

調査内容: (1) 最近の活動状況
(2) 取組の効果や課題
(3) 今後の事業展望等

1. アンケート調査結果

令和3年度に元気づくり支援金を活用して事業を実施した団体を対象に、事業実施から一定期間経過後の地域への効果や団体の活動状況に関するアンケート調査を行いました。

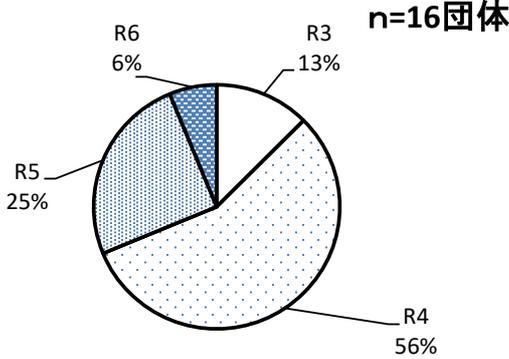
○元気づくり支援金活用後の団体活動について



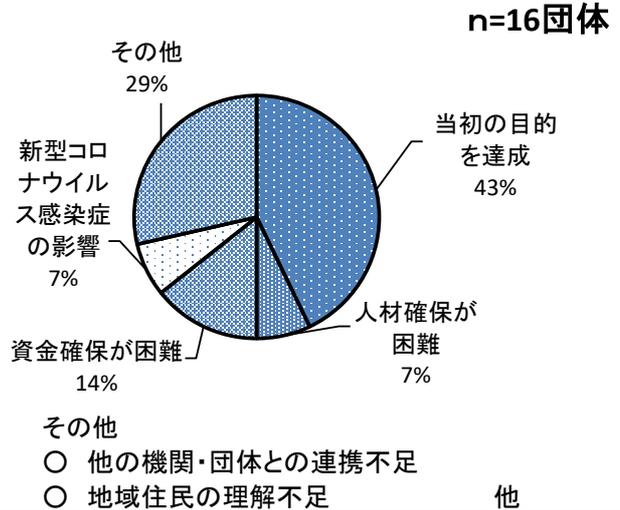
■ 元気づくり支援金の活用後も85%の団体が活動を継続している。

問 元気づくり支援金を活用後、活動を休止又は終了した(する)年度はいつですか。また、その理由は何ですか。

休止又は終了した(する)年度



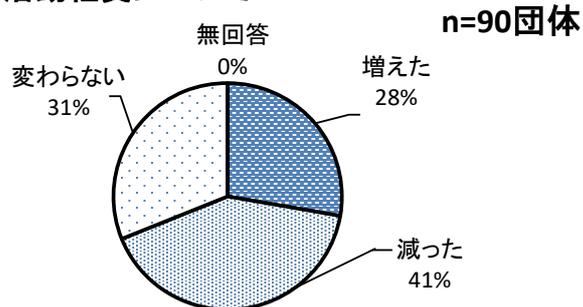
休止又は終了した(する)理由(複数回答)



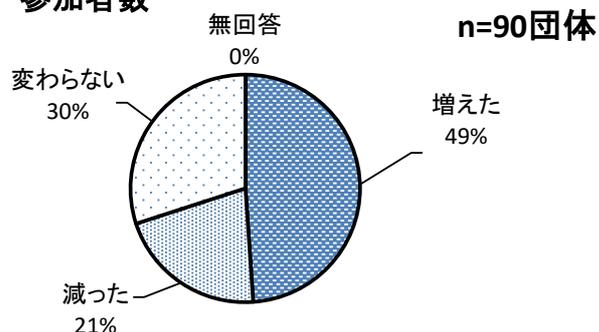
■ 資金確保が困難なこと等により、やむを得ず休止・廃止する団体がある一方で、当初の目的を達成した等の前向きな理由によるものも多く見られる。

問 元気づくり支援金活用事業を実施した年度と現在を比べて、活動に変化はありましたか。

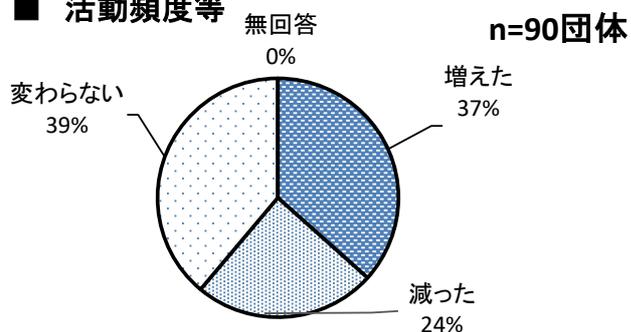
■ 活動経費について



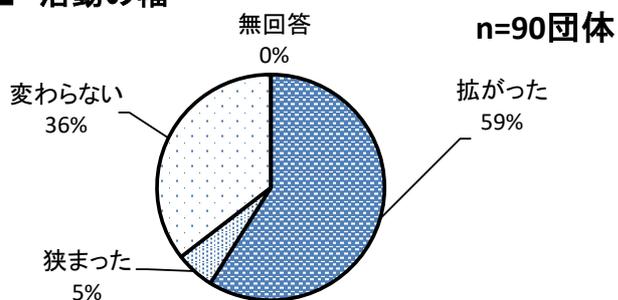
■ 参加者数



■ 活動頻度等



■ 活動の幅

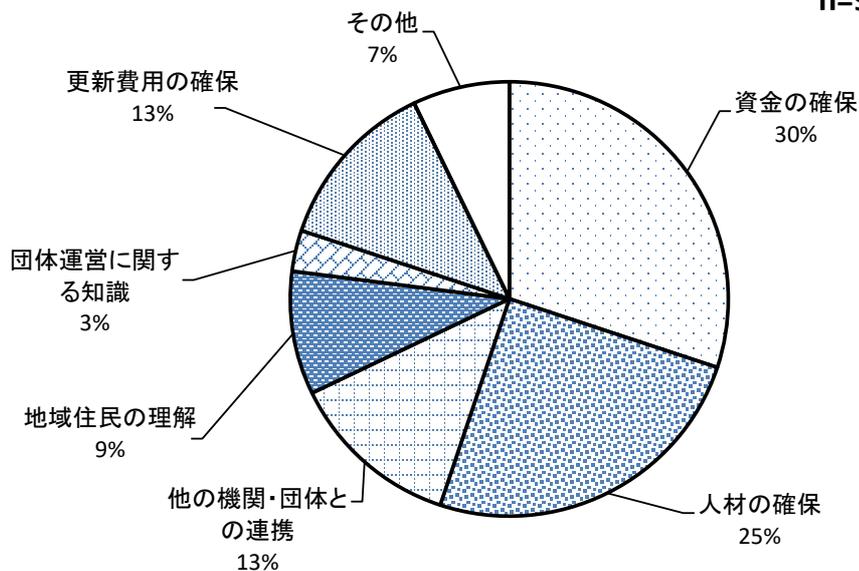


■ 総合的に見ると、元気づくり支援金を活用後、活動が活発化している団体が多い。

○活動を行っていく上での課題

問 活動していく上で、課題となっていることは何ですか。(複数回答可)

n=90団体



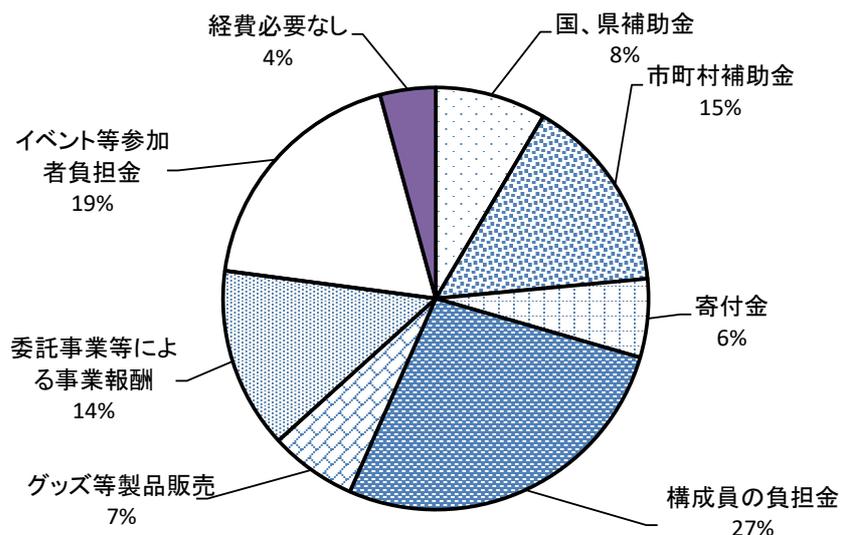
その他

- 活動のPR方法
- 活動に対する意識の涵養
- 経営面に関する専門的な知識や行動力の不足
- 会場の確保

■ 活動を続けるには資金と人材が特に必要

問 活動資金の調達先を教えてください。(複数回答可)

n=90団体



■ 構成員の負担金が多いことが課題。

国、県、市町村補助金や寄付金、構成員の負担金等が全体の56%

「地域発 元気づくり支援金」令和3年度実施事業に係るフォローアップ調査集

回答団体数【地区別】

佐久	上田	諏訪	上伊那	南信州	木曾	松本	北アルプス	長野	北信	合計
6	9	8	11	18	9	10	7	17	11	106

【問1】 設立時と比べた、構成員の人数の現状をお願いします。

設立時と比べ、構成員が増加	50
設立時と比べ、構成員が減少	23
設立時と比べ、構成員が同数	23
未回答・不明	10

【問2】 現在、構成員を募集している場合はその方法や課題・工夫等があればお願いします。

- ホームページ及びSNSの活用
- イベントを通じた勧誘
- 一般公募、ハローワーク等
- チラシやパンフレット等
- メンバーからの紹介、口コミ等
- 若い世代を積極的に勧誘する
- 他

【問3】 元気づくり支援金を活用して取り組んだ活動（以下「活動」という。）を継続していますか。

- ① 継続している。（一旦休止した後、再開した場合を含む。）
- ② 同じ趣旨の活動を実施している。
- ③ 休止・終了した。

①	57
②	33
③	16
未回答・不明	0

①、②を選んだ方は【問4】へ、③を選んだ方は【問10-1】へお進みください。

【問4】 活動は地域に対してどのような効果があると感じていますか。

- 地域に対する関心の増加・魅力の再発見
- 交流人口の増加、人と人とのつながり創出
- 地域住民の防災・減災意識向上
- 地域経済の活性化・まちのにぎわい創出
- 人材の育成・担い手確保
- 食育・地産地消の意識向上
- 循環型社会の機運醸成
- 地域の景観・環境整備
- 歴史や文化の継承
- 他

【問 5】 元気づくり支援金活用事業を実施した年度と、現在とを比べて活動に変化はありましたか。次の番号からお選びください。

○ 活動経費 ①増えた ②減った ③ 変わらない

	活動経費	参加者数
①	25	44
②	37	19
③	28	27
無回答	0	0

○ 参加者数 ①増えた ②減った ③ 変わらない
(※ 構成員を除く事業への参加者数)

○ 活動頻度等 ①増えた ②減った ③ 変わらない
(※ イベント開催数、支援金で整備した施設等の稼働率など)

	活動頻度等	活動の幅
①	33	53
②	22	5
③	35	32
無回答	0	0

○ 活動の幅 ①広がった ②狭まった ③ 変わらない
(※ 元気づくり支援金活用事業とは別に、新たな活動に取り組んだ → ①広がったに計上)

理由

- 新型コロナウイルス感染症の影響がなくなったため (活動頻度：①増えた)
 ○ 協賛企業の確保や、様々な団体との連携を図ったため (活動経費：①増えた)
 ○ 活動やイベントの認知度が向上したため (参加者数：①増えた、活動の幅：①広がった)
 他

【問 6】 活動資金の調達先を次の番号からお選びください。(複数回答可)

- ① 国、県補助金 (補助金名：)
 ② 市町村補助金 (補助金名：)
 ③ 寄付金 ⑥ 委託事業等による事業報酬
 ④ 構成員の負担金 ⑦ イベント等参加者負担金
 ⑤ グッズ等製品販売 ⑧ 経費必要なし

①	14
②	25
③	10
④	45
⑤	11
⑥	23
⑦	31
⑧	7

① 国、県補助金

- 休眠預金活用事業
 ○ ユニバーサルツーリズム推進機器導入等補助事業
 ○ 文化芸術振興費補助金
 他

② 市町村補助金

- 商工業振興補助金
 ○ 自主防災組織防災活動強化事業補助金
 ○ 協働の村づくり支援金
 他

【問 7】 活動資金を得るための取組や課題・工夫等あればお願いします。

- 他団体、行政、教育機関等とのつながりを深める
 ○ 関係者や参加者に活動の意義を伝え、理解を得る
 ○ SNSやホームページによる情報発信の強化
 ○ 物販などの収益事業を行う
 ○ 企業からの協賛金や広告料、寄付を集める
 ○ 経費の削減
 他

【問8-1】 団体として市町村（市役所・役場）と連携した事業を実施したことはありますか。次の番号からお選びください。（複数回答可）

- ① 団体として実施する元気づくり支援金活用事業の中で連携したことがある。
- ② ①以外の団体として実施する事業の中で連携したことがある。
- ③ 市町村が実施する元気づくり支援金活用事業の中で連携したことがある。
- ④ ③以外の市町村事業の中で連携したことがある。
- ⑤ 実施したことはない。

①	38
②	28
③	4
④	28
⑤	25

- ③～④を選んだ方は【問8-2】へ、③～④を選んでいない方は【問9】へお進みください。
- ※ 連携した事業とは、事業の共同実施のほか、企画・立案・実施のいずれかの段階への参画・協力や、事業の一部又は全部の委託も含むものとします。ただし、市町村から後援を受ける以外の関わりがない事業は除いてください。
- ※ ③と④の選択肢について、市町村が実施する事業が元気づくり支援金を活用したものかわからない場合は、④を選択してください。

【問8-2】 市町村が実施する事業に団体としてどのように関わったか教えてください。

・③（市町村が実施する元気づくり支援活用事業）での関わり方

- 実行委員会に市町村が加入している
- 市町村事業の企画・運営
- 市町村が主催するイベントに協力者として参加した
- 他

・④（市町村が実施する元気づくり支援活用事業以外の事業）での関わり方

- 市町村事業の企画・運営
- 地域の文化祭に参加した
- 市町村が開催する勉強会の講師を務めた
- 他

- ※ ③と④の事例を別々に記載してください。（該当しないものは記載不要）
- ※ 該当する事業が複数ある場合は、それぞれ代表的なものを一つ記載してください。

（記載例）

- ・市町村が実施する〇〇事業（事業概要）で、企画段階から参画し、〇〇を行った。
- ・市町村が実施する〇〇事業（事業概要）のうち、〇〇業務を市町村から委託された。
- ・市町村が実施する〇〇事業（事業概要）で、〇〇するイベントに〇〇として参加した。

【問9-1】 今後、活動を継続していく上で、課題となっていることは何ですか。次の番号からお選びください。なお、活動を休止・終了する予定の方は【問10-1】、【問10-2】へお進みください。（複数回答可）

- ① 資金の確保
- ② 人材の確保
- ③ 他の機関・団体との連携
- ④ 地域住民の理解
- ⑤ 団体運営に関する知識
- ⑥ 今後見込まれる施設・備品等の更新費用の確保
- ⑦ その他（具体的に下欄にお書きください。）

その他

- 活動のPR方法
- 活動に対する意識の涵養
- 経営面に関する専門的な知識や行動力の不足
- 会場の確保
- 会員の高齢化・減少
- 他

①	59
②	49
③	25
④	18
⑤	6
⑥	25
⑦	14

【問9-2】 【9-1】の課題を解決するために必要な支援、事項は何ですか。次の番号からお選びください。
(複数回答可)

- ① 国・県・市町村の補助金
- ② 補助金以外の財源確保に関する知識
- ③ 地域活動などの専門知識を有する外部人材の派遣
- ④ 地域づくり団体との情報共有・ネットワークづくり
- ⑤ その他（具体的に下欄にお書きください。）

①	47
②	19
③	16
④	36
⑤	23

その他

- 自主財源の確保
- 市町村や地域住民の理解
- 専門的知識を有する人材の確保
- 事業内容の見直し
- 他の補助金・助成金の紹介
- 熱意
- 他

→ 【問11】へお願いします。

【問3】で「③」を選択、又は【問9-1】で「休止・終了する予定の方」
【問10-1】 元気づくり支援金活用事業を実施した後、休止又は終了した（する）
年度を記入してください。

休止・終了年	
R3	2
R4	9
R5	4
R6	1

【問10-2】 活動を休止又は終了した（する）理由を次の番号からお選びください。
(複数回答可)

- ① 当初の目的を達成
- ② 資金確保が困難
- ③ 人材確保が困難
- ④ 他の機関・団体との連携不足
- ⑤ 地域住民の理解不足
- ⑥ 団体運営に関する知識不足
- ⑦ モチベーションの低下
- ⑧ 新型コロナウイルス感染症の影響
- ⑨ その他（具体的に下欄にお書きください。）

①	12
②	4
③	2
④	3
⑤	2
⑥	1
⑦	0
⑧	2
⑨	2

その他

- 時間的余裕がないため
- 地域おこしに関する地域住民や関係機関、団体の理解不足
- 他

【問11】 元気づくり支援金を活用した経験から、元気づくり支援金の補助内容などに関してのご提案や、これから応募する団体へのアドバイスがあればお書きください。

- 補助率を上げてほしい。
 - 申請に係る書類を簡素化してほしい。
 - 伴走支援の制度があると、ノウハウがない団体も活動でき、地域の更なる活性化につながると思う。
 - 重点テーマ決定のスケジュールが早まるとありがたい。
 - 支援金を活用した事業について、広報的な支援をしてほしい。
 - 金額の上限を設けるなど、1件でも多くのグループに支援金が届くようにしてほしい。
 - 良い制度なので今後も継続していただければありがたい。
 - とりあえず、地域のために何かやってみたい、と考える人にとっては良い補助金のシステムだと思う。
 - 補助率が100%ではないため、その差額分の自己資金の調達、支援金対象年度以降の活動継続のための資金、人員の確保を念頭において計画しなければならない。
 - 元気づくり支援金を利用した活動期間後の団体の在り方、また継続が鍵となると思う。
 - 元気づくり支援金の活用は決してハードルが高いものではない。様々な事業を行うために金銭的支援は力強い。広域で連携して行う事業等は特に気軽に応募することをお勧めする。
 - 申請にあたっては、支援金を得て行いたい事業について、申請前に明確な全体のビジョンと、ある程度詳細な事業展開のフローと予算計画を練っておいた方がよい。
 - あくまでも元気づくり支援金を活用する3年間は事業の基礎を固める期間であり、この3年間で地盤を固めたうえで4年目以降も地域貢献できるかどうかが大切。4年目以降も必ず課題は出てくるが、元気づくり支援金の活用期間内にいかに関係者との良好な関係構築ができるかがポイント。
 - 元気づくり支援金活用事業は比較的小規模のものが多いので、その先の目標を持ち、補助金の切れ目が事業の切れ目にならないプランが必要。
 - 中心メンバーだけでなく、周りのメンバーや地域住民の理解・協力が必要なことが多いので、話し合いや説明会を多く実施した方がよい。
 - 活用の過程で自分たちの活動目的が明確になっていくことを感じられる。
- 他